

免疫機能の老化解明へ

弘大と麒麟共同研究講座

岩木健診データ解析

予防や新たな価値創出

さまざまな要因が複雑に絡み合っている「老化」。弘前大学と麒麟ホールディングス(本社東京都)は、加齢に伴う免疫機能の老化に着目した共同研究講座「エイジング・システム医科学研究講座」を4月1日付で開設し、27日に弘前大医学部で開式を行った。老化のメカニズム解明とともに、研究成果で得られた知見を予防やセルフケアに生かすことを目指し、同大が中心となつて取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の、超多項目かつ22年にわたる健康ビッグデータの研究解析を進めていく。(稲葉智絵)



共同研究講座の看板を手にする福田学長(左から2人目)と赤塚所長(同3人目)ら

同社は、ビール事業で培った発酵やバイオ技術を中心に、飲料・ヘルスサイエンス・医薬の三つの領域の事業を大きく発展。さらに、人々の健康寿命延伸、ウェルビーイング(心身および社会的に健やかで幸せな状態)の実現に向けて、独自に発見したプラズマ乳酸菌の活用など免疫に関する研究開発を拡大してきた。

共同研究講座では、同社の技術や研究を基盤に、岩木健診の健康ビッグデータの解析による多角的な免疫機能研究を進め、老化の原因や仕組みを解明していく。同社麒麟中央研究所の駒野悠太主務によると、今年度から岩木健診に参画

し、免疫状態を調べる項目を尿検査に追加。4月から研究員1人が同大に常駐、共同研究に着手している。開式では福田眞作学長が「超高齢化社会のわが国において健康寿命の延伸は重要な課題。本講座が本県のみならず、日本全体のウ

エルビーイング向上に貢献するとともに、世界に発信する新たな知見につながることを強く願う」、同大学院医学研究科の石橋恭之研究科長が「免疫機能の研究から慢性疾患やがん、精神疾患の発症などが明らかになってくるだろう」と大きな期待感を示した。

麒麟中央研究所の赤塚秀貴所長は約3000項目、延べ約3万人以上に上る健診データを20年以上蓄積する岩木健診のビッグデータを「健康を多面的に理解するためのデータとして

の共同研究講座が開設されている。